

トビイロウンカの防除について

トビイロウンカの被害

トビイロウンカは、例年6月末から7月初めにかけて、中国大陸から下層ジェット気流に乗って、日本へ飛来します。移植後間もない水田に飛来した成虫はあまり定着せず、イネの活着が進んだ分げつ初期のイネに定着数が多くなる傾向にあります。飛来から約1ヶ月後の7月末から8月上旬にかけて第1世代、その約1ヶ月後に第2世代というように増殖を続けていきます。そして、9月中旬から第3世代幼虫が増え、生育が進むにつれ坪枯れ被害が出始めます。

トビイロウンカの防除

ウンカ類の防除は移植時の箱施用剤と、各世代の若齢幼虫期（第2世代：8月上旬頃、第3世代：9月上旬頃）での本田防除が基本です。

- ・ 予 防：①スタークル粒剤 1袋/10a 灌水状態での散布
- ②スタークル豆つぶ 1袋/10a 灌水状態での散布
- ③パダンバッサ粒剤 1袋/10a 灌水状態での散布

※エコレンゲ米を栽培している場合は、

①・②のいずれか1回のみ使用可、③は使用不可

- ・ 散布期間：中干後～8月下旬頃

- ・ ほ場巡回：ほ場をこまめに見回ることにより、早期発見に努める。
(トビイロウンカは、水田内で局所的に発生するため、水田内を広く見回り、株元をしっかりと観察し、発生に注意する。)

- ・ 害虫駆除：少しでも発生が確認できたら、速やかに営農指導課へ相談ください。

- ①トレボン粉剤DL 1袋/10a
- ②トレボン乳剤 希釈倍数300～600倍、25ℓ/10a

※エコレンゲ米を栽培している場合は、①・②ともに使用不可

トビイロウンカは、株元に生息しているので、薬剤散布は株元中心に！

※薬剤使用の際は、適用と使用法を必ずご確認ください。

(お問合わせ先)

北河内農業協同組合 営農指導課

担 当 : 奥野・船越

電 話 : 072-836-7777